

小学校のスキー遠足で

海辺の森を案内

3月1日(金)に斜里町大栄小学校で歩くスキーを使った遠足行事があり、学校の要請に応じて、当センターから職員を派遣し、子供たちに海沿いの防風林を案内しました。場所は、先日の「森とのふれあい」で使ったコースです。

参加者は一年生から六年生までの14名に先生方や子供達のおじいさん数名も加わりました。学校からバスでやってきた子供たちは、慣れた手つきでスキーを履くと、早速、海岸沿いにある森に入りました。

年老いた木が動物たちにとって必要なことや、海岸の林が風を和らげる働きをしていること等についてセンター職員から説明を聞きました。昼食は流氷の見える広場で景色を眺めながら食べ、記念写真を撮りました。

帰りはバスの待ち合わせ時間に余裕がなく直行になりましたが、一年生も坂道を難なく滑って、無事到着しました。

最後に生徒の皆さんにお礼の言葉をいただきお別れをしました。今回も天候に恵まれて自然を十分に感じる楽しい一日となりました。



オホーツクの流氷を見ながら
スキーで遠足



保安林の説明は難しいかな？



人の動き：

当センターで永年にわたり活躍なさった緑化第二係長の大串智子さんが、今月一杯で定年を迎えられます。40年以上も国有林野で働いてこられました。当センターが設立されてからもずっと頼りになるベテラン職員としてご活躍されました。永い間、ご苦労様でした。

知床の森から

北海道森林管理局北見分局 知床森林センター

〒099-4113 北海道斜里郡斜里町本町11番地

電話 01522-3-3009 FAX 01522-3-3160

ホムペ <http://www.siretoko.knc.ne.jp/>



知床は今

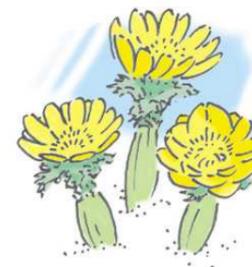
今年の冬は例年になく暖かい日が続き、いつもより早く春が近づいているようです。一月中旬から接岸していた流氷も最近の陽気とともに岸から離れ始め、例年より半月も早く「海明け」となりました。

森の中でも雪解けが進み、所々で地面が顔を出しています。木々の新芽もふくらんできていて、春を待ちわびています。しかし、このところ、エゾシカがとて増えています。森の中から国道へあふれ出す程で、せっかくの新芽も食べられてしまうのではないかと心配です。

さて、今年はこのまま春へと向かっていくのでしょうか。それとも、また冬へ逆戻りすることがあるのでしょうか。今年の夏の天候のことも気になる今日この頃です。



海明けのウトロ港



春を待つシュウリザクラの芽

第60回森林レクリエーション・in知床

イチイの森を歩くスキーで散策



第60回「森林レクリエーション・in知床 イチイの森を歩くスキーで散策」を、3月7日(木)、斜里町ウト口の遠音別岳(おんねべつだけ)山麓で開催しました。参加者は北見市をはじめ近隣市町村からの参加となり、往復約3キロの知床の森を歩くスキーで散策しました。

当日は、3月としては肌寒い気温で、予報では曇時々雪でしたが、晴れ間ものぞく天候に恵まれました。踏み固められた雪の上でうっすらと新雪が積もってスキーの滑りが良く、参加者の方々は尻餅をつきながらも勢いよく坂道を滑りおっていました。

コース途中には、直径が1メートル以上あるオヒョウニレやミズナラの木があり、その大きさに感動している様子でした。クマゲラが樹の中の虫を採るために開けた大きな穴に小鳥が巣を作っていたり、オニグルミの枝から葉っぱが落ちた跡が猿の顔に見えたりして参加者の目を楽しませていました。

また、エゾシカに樹皮を食べられた木が数多く見られ、エゾシカに木の皮をぐるりと一周食べられるとその木は枯れてしまうというインストラクターの説明に参加者の皆さんは深刻な面持ちで耳を傾けていました。

オホーツク海が一望できるポイントでは、紺碧の海に白い氷塊が映える風景を参加者の皆さんが写真におさめていると、オオワシがグライダーのように滑空して一行の頭上を飛び去っていき、その勇壮な姿に思わず歓声があがりました。

歩くスキーで知床の奥深い森を散策し、充実した一日を過ごしました。



オヒョウニレの大木

第41回森とのふれあい

「歩くスキーで濤釣沼周辺を探索」

2月24日(日)、第41回森とのふれあい『歩くスキーで濤釣(トウツル)沼周辺を探索』を斜里町立知床博物館との共催で行いました。

イベント箇所は斜里町大栄の海岸沿いにある潮害防備保安林で往復約3kmの平坦なコースです。このコースは、今回初めてイベントに利用するコースで、応募者がいるかどうか少々不安でしたが、町内から16名の参加がありました。

当日は晴天に恵まれ、雪面のキラキラした反射光を受けながらエゾマツの造林地を通り、カシワナラの自然林を探索しました。強い季節風を受けているため、どの木もまっすぐ伸びることが出来ず、枝が風に揉まれてクネクネと伸びています。

一行はウサギの足跡や木々の冬芽、保安林の働き等の説明を聞きながら森の中を進みました。森から開けた場所に戻った時、オオワシが上空を舞って出迎えてくれました。また、眼前に青く広がるオホーツク海には流氷が浮かび美しい輝きを見せていました。

途中、コースに平行して走っている線路の上を流氷観光のお客を乗せて運行している列車「流氷ノロッコ号」が通過し、お互いに手を振って見送りました。

参加者からは、濤釣沼の周囲もぜひ散策したいという声が聞かれ、早くも次回の開催が待ち遠しいようでした。



明るい日差しの中を進みます



説明に聞き入る参加者

